

KODAK COLOR CHART

© The Liffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



書拾興



特別
八九
4406



門 へ 9
4406
卷

春遊興序

孤立道人我公譚今古童
謡以為詩題曰春遊興夫
童謡者多出於里巷而言
情閒星降託人以風世者



昭和二十二年六月八日
宮川曼康氏寄贈

也於是乎聖人協之聲律
而用之邦國周公所以化
天下孔子所以辨萍實蓋
亦依焉道人之爲譯也雖
則幾乎戲謔然國之所風

何無益耶詩曰善戲謔兮
不爲虐兮道人在焉近需
挾於予乃開帙且閱且
挾喟然而歎曰有是哉事
之竒也盍傳之千秋矣故

述其意以弁卷首云

丁亥春三月

東都圖南子撰



春遊興

東風解凍蟄蟲始振人欲遊外

所以稱春為仁也芝山

妙大僧正應請以遊于寶松院

院之為庭也曲樹雖多梅華孤

笑黃鳥不轉而寥焉美酒禦

寒珍味催暖奇甚悅目日將暮
也我為侍者消欠伸自譯童謡
為詩破顏微唱以擬東哲漫戲
胡盧絕倒猶何平子者多矣主
人揚眉而歎曰善哉春風大振
松營我乃擎草稿以呈几下

賦東都春色

一望武城春萬家倚樹新玉輿
逐風競金馬帶霞巡雪白西山
麓日紅東海濱柳營催淑氣鶯
醉宦遊人

天のうたはちかき色はうしろむすねの
枝をたぐりてさねゆ氏乃そよの香

こゝに於ての山中なまの文をやらすも復紙ハ
もとの事てらんるしうくあつたよと云ふ

邂逅關山裏
淚流發語難
欲書無硯紙
君為報平安

さいたあううにちうせはあつたあうこまか
いさめそ華うあうしううあつた

櫻樹華開後
君何繫白駒
白駒嘶動樹
華散使人瘳

ぬれはあうのさうりくそけくとあうあうあうあう
とちそとあうあうあうあうあうあうあうあうあう

朝日照芙山
雪釋流三島
妓女汲清顏
復為粧水好

あういあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

蓬髮女洒布
獨低頭
散步高山頂
遠觀寒谷流
可憐

たつら... ぬき... 今... 八

君思與不思見目自能知見目
今思目令歡何日時

欲一折春華標高枝不斜盡心

焦思後及側作吁嗟

あつろ... あり... あり

朝夕細心見務遊交易間豈惟
求佐渡目下有金山

七里... あり... あり

適尋七里來恍惚不飛杯將結
巫山夢朝陽入戸開

春遊

函山八里はむろくをやるあまに
あさひぬ大井川とついでに

函山八里間跨馬一心安堰水

雷鳴處寒毛得度難

そよそよと百をくくやの十五を
くくふふ髪のもゆ髪をくく

君克百壽誇我少一年姪聯步

遊花月俱生白髮爬

ふまればゆきをふたふとめとよ
くくくくをくくくくくくく

遊歩白雲外自憐孤露身月花

風雨節潛雨憶雙親

ゆれやあえんゆすもと葉又むれ
目つきをくくくくくくく

情人期後世銜刀為雙斃終晒

路旁時遊魂孤落涕

世人多植樹眠食待春花日夜
 思無益致勿復嗟

その方くのちなるをさすはがしあはれや
 福くゆん果報益なるがひと費ひつゝ心は
 あありのちるくくさうき世を車めらう
 めくろい又めくろい何やとをばは

別離莫苦嗟浮世是如車轉轉
 廻廻後復逢握手拏

君は海多のよはそりまけなふいやはあはれを
 言尾なるよめみかきまといふはは

春夜是三歳待君似個長秋霄
 交接語半刻至朝陽

侍りかきかかてまよせぬうち小あけの
 かきまといふまよはらばやといふはは

君來交口夜積念未相談鴉告
 曉天去怨情滿胸暗

大
林
集
卷
之
七

君より何れかてん天神さあふれけり梅を
たよりまほしき歯の懸一筋とてはははは

欲逢君子日建願拜天神誓不
食梅實終歸命齒身

たのしみはくしむる川中柳うまきを
わりのひを月一とてはははは

何恨河中柳隨風日動揺吾人
同欲折隔水下條喬

君れは家々目か多し
かめとる年あまの
つひははは

君家餘慶家千歳見榮華龜鶴
常來徃舞遊池水涯

昭代は目か及や
枝もさうく
葉もさうく

昭代比松樹連枝蓋世榮葉繁
千歳後綠色倍光清

君子思無邪
生涯醉宰家
豈唯今世契
後臥一蓮華

結譯

春興譯童謡
俚詩三十五
少年消欠伸
捧腹淚如雨

譯童謡畢將閣筆時或曰請
又譯和歌而獻笑于鳳前乎
我乃譯其所吟以高讀

予の〜とある〜はう〜の〜を〜

曉天明石浦朝霧起
如煙目送風帆後
惜行隱嶋船

あきやこのゆらもあはれしものいふも
しるしあはれぬし何ゆゑのいふもあはれしものいふも

旅人往也還別路萬山間知與
不知共相譏逢坂關

かまけ、まづ月やそよみの候ね、まづまづ
あつちり月ありまづのちりまづあつちり

月何令我潛羨往仰天靦每夜
傾西去淚流似怨顏

山寺けもろのゆからまきまき、あはれしものは
あつちりのゆからまきまき、あはれしものは

春日遊山寺悠然見夕陽鐘聲
振萬木庭上落花香

さし、あはれしものはまきまき、あはれしものは
いつともあはれしものはまきまき、あはれしものは

山僧厭寂寥出寺獨道遙絶目
觀何處風寒秋夕霄

一望浪華濱春遊疑是夢回頭
多倒蘆枯葉隨風動

出遊田子浦風景更無端仰見
高天白芙蓉雪色寒

東風吹起日梅樹送花香惟為
愁無主春來勿復忘

華浴與霞出吟行萬里閒秋風
吹起後漸見白河關

昔年為君子，不惜命終情。今日願何事，及思長壽榮。

風吹起白波，龍額鬱嵯峨。夜半思君子，獨行無畏過。

昔年為君子、不惜命終情、今日願何事、及思長壽榮、

風吹起白波、龍額鬱嵯峨、夜半思君子、獨行無畏過、

此是人間世，即今喻者何。曉天

湖水上，推鱗船行波。

獨坐孤山下，悠然見月花。願逢

離世友，語昔在塵家。

心さくはに、くさき世、いそそん、まじり、う、那、くや、く、まき、まじり、か、あ、ん、と、た、ま、

を、れ、中、以、な、あ、た、く、ん、あ、さ、ゆ、く、ま、た、ま、は、り、あ、ま、の、ま、く、な、ま、く、は、り、は、

將歸時賦饗應以謝

鳳遊天谷日雀躍寶松營茶在
金華薄酒光琥珀清香煙爭蕙
氣河涌勝流聲棋上終燃燭未
催奮翼情

さけびのこもるもさかや喜は月
くもくこもるもさかや喜は月

こもるもさかや喜は月
さけびのこもるもさかや喜は月

詩也者思無邪周公集孔子撰
此豈為戲論乎況於佛唱頌神
詠歌動天地補人過可謂妙法
矣我汲吉水流漫裁戲歌俚詩

其謂之傲顰而為笑不亦宜哉

明和四年春二月五日

山南前正法教寺釋大我自

書於武城芝山

春遊興終



附尾

大學

釋大我

春到百花开家自勸杯鳳鳴

仁氣立麟舞義風迴明德賢人

悅親民遠者來觀黃鶯所止須

遊至善臺

君道

人君進善賢克己行經權傾耳
奏幡下低頭諫鼓前花遊青艸
地月望白雲天常畏一夫醉惟
為五帝憐

臣道

人臣篤敬誠舍己計君榮花月
見仁如風流臨義爭一言無競
利萬行不馳名自恨范蠡退唯
依葛孔明

勸學

靜坐學林人莫愁錢與貧簞瓢

支命淨螢雪照書新穿石多年
滴為山數月塵孜二無廢畫析
義入精神

賣貧

金仙說賣貧善道讓行人花木
供二寶清温奉二親施他方外

義克己世中仁黑耳嫌相去心
為天女隣

誓船

性海惡風扇妄波蹴覺天貪龍
張口躍瞋鱗掉頭旋今有戒囊
破本無慧筏全未知浮水定須

乘願王船

春遊興跋
善譯方言古今所難孤立
道人頗巧其工矣春譯章
謠為詩蓋應某遊興耳至
頌國風不失氣格佳句麗

春遊興跋

善譯方言古今所難孤立
道人頗巧其工矣春譯章
謠為詩蓋應某遊興耳至
頌國風不失氣格佳句麗

字使人顧也青襟閒讀是
詩以催詩情催乎此即
不自苦而譯方言
丁亥三月古東都源輝撰



東都書林

子也川

115431

